

環境目標と達成状況について

(1) 各課・各施設の実態にあった良好な取組と評価

対象課・施設	目標	評価
企画政策課	物品購入時にはリサイクル可能な製品・再生品を購入する。また、カタログ等で確認しグリーン購入法適合製品を優先する。	物品購入の際はすべてグリーン購入法適合製品での購入が可能であることを確認の上、発注を行った。4種類ほど、形状・性能等の検討したうえでグリーン購入をしなかったが、それ以外はグリーン購入を実施した。今後も業務上不都合な場合を除いてはグリーン購入法適合製品を優先して購入する。
地域コミュニティ課	①事務機器等を適正利用する ②照明の適正利用に努める ③冷暖房の適温励行を徹底する (目安 冷房 28℃・暖房 20℃) ④ノー残業デーを徹底する	今までは戸籍住民課でしかできなかったエアコンの設定を地域コミュニティ課事務室で行えるようにしてもらい、冷暖房の適温励行を実施した。
戸籍住民課	繁忙期以外の時期に、完全ノー残業デーを年5回実施する。残業の必要がある時は、火曜日の窓口延長時の残業を促すことにより、節電に取り組む。	8月と12月に完全ノー残業デーを設定して取り組み、8月に3回12月に1回の計4回、完全ノー残業デーを達成することができた。
会計室	①「ごみ」と「資源」の分別を徹底する。 ②使用済封筒等、事務用品の再利用に努める。 外1項目をチェック対象とし、5段階評価のチェックを実施。目標値を4.6点以上となるようにする。	省エネ・省資源チェックリストの結果の平均点は4.84点で目標値に達することができた。中でも①分別の徹底は高評価であった。
あゆみの家	給食室から出る廃油(食用油)を、石鹼を作る団体へ提供し、廃棄物を減らして資源の有効活用をする。	資源の再利用として、環境マネジメント活動に貢献できた。
百人町保育園	給食の残飯等を再利用し、施設の植栽に使用する堆肥作りを行う。	野菜の皮などを肥料として活用した。
新宿西戸山中学校	教室に3種のごみ箱設置、廃棄場で生徒美化委員の立番でごみ分別を実施。 管理者側も小物に至るまでごみ分別を徹底している。ごみ箱の数を減らし、ごみ集約化をして管理をしている。	教室、廃棄場すべての場所でのごみの分別ができた。 職員室内も極力ごみ箱を排除し、個人のごみ箱は撤去。 共有ごみ箱を6種類に分別し使用させた。

(2) エネルギー使用量等の数値目標と評価

対象課・施設	目標	評価
監査事務局	用紙使用量について毎年重要課題として取り組んでおり、監査事務の効率化を図りつつ用紙の削減を目指す。 監査報告書、意見書等の冊子については、再生紙を使用する。	毎年、7種類の監査報告書等を作成しているが、行政監査のテーマや監査する財政援助団体等によっては、報告書のページ数や配付部数が異なってくる。 平成30年度は、報告書の部数・ページ数が増えたが、日々の使用枚数が減ったことにより、前年度比0.7%の削減となり、目標値に近づけることが出来た。
衛生課	経済走行をする。不要なアイドリングはしない。出張には、公共機関や自転車を利用する。	出張の際には、公共交通機関や自転車を積極的に利用した。その結果、ガソリン使用量を前年度比約58%削減することができた。
新宿自治創造研究所 担当課	①コピーや印刷物の作成にあたり、両面コピー・両面印刷を励行する。 ②会議の資料の枚数・部数に配慮し、簡素化する。 ③職場では、可能な限り資料を人数分コピーせず、供覧またはメール転送を行う。	両面コピー・両面印刷を励行し、研修や会議資料の印刷部数を最小限にしたこと、供覧の励行により、紙使用量を削減できた(2.0%減)。
落合第二特別出張所	職員に裏紙使用の励行を呼び掛け、平成29年度を基準として1.0%削減する。 平成29年度用紙使用量：109,500枚	平成30年度は、裏紙使用の徹底、電子データ共有等により、平成29年度比19%削減を達成した。 平成30年度用紙使用量：88,500枚
高田馬場シニア 活動館	・電気使用量を平成29年度を基準として、1.0%以上の削減 ・ガス使用量を平成29年度を基準として、1.0%以上の削減	省エネに対する職員意識の向上のために、グラフによる使用量推移の「見える化」をし、随時取組の検討をした。電気使用量はこまめなオンオフ、コピー機の節電モードの切り替え、職員のエレベータ使用不可等により、0.7%削減を達成。ガス使用量は、高齢者の室内環境を優先しながら、こまめな温度管理等により、目標の1%を大幅に上回る、5%削減に成功した。
西戸山生涯学習館	ガスの使用量を平成29年度の使用実績から1%削減し、省エネに努める。(29年度実績：4,519 m ³)	30年度のガス使用量は4,257 m ³ となった。前年比94%の使用量であり、目標を上回る数値での達成となった。
柏木小学校	日常的に洗面所や流しにおける節水の励行を図る。水泳指導時の水の出し閉めについても忘れずに行うことを徹底する。	校内への水道使用量削減の周知や委員会を通じて児童にも意識させることで前年度比94%となり、6%の削減に成功した。